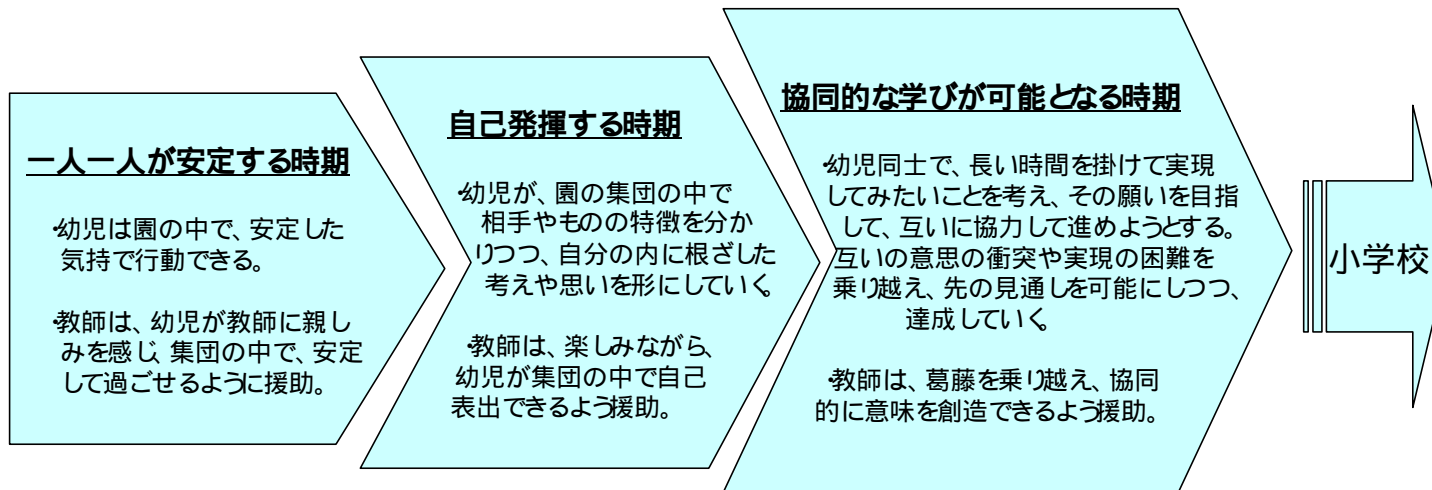


協同的な学びに向けて (イメージ)

幼稚園教育の基本 幼児の主体的活動である遊びを通じ、教師が環境構成による援助を行い、総合的な発達を促す



協同的な学びへのプロセスと発達の過程(イメージ)

背景

基本的な生活習慣が身についていない
自発性に欠ける・自発的に遊べない
運動量が少ない・体力の低下
強固な親子関係の投影
コミュニケーションがとれない
自己中心的・自制心に欠ける

小学校以降における
学習との関係

確かな学力基盤を形成する。
協同的な学びの経験が小学校以降の学習や生活において、物事に対する関心や学習意欲を深めるとともに、生活科・総合的な学習の時間などでの集団学習の活性化などにつながっていく。

教師による援助
・環境構成

発達の過程

一人一人が安定する時期

- ・幼児は園の中で、安定した気持で行動できる。
- ・健康な生活のリズムを身につける。
- ・親しみをもって日常のあいさつができるようになる。

自己発揮する時期

- ・幼児が園の集団の中で相手やものの特徴を分かりつつ、自分の内に根ざした考えや思いを形にしていく。
- ・幼児が、先生や友人と共に過ごす喜びを味わう。
- ・きまりの大切さに気づき、守ろうとするようになる。
- ・多様な活動に興味をもち、主体的に取り組めるようになる。

協同的な学びが可能となる時期

- ・自分で考え、自分で行動できる。
- ・活動の集中力・持続力向上。
- ・幼児同士で、考えを出し合い、協力・工夫して物事を進める。
- ・自分の考えや思いを通そうとして、葛藤が生じる。
- ・他者の考えや思いを理解し、自らを調整することができる。
- ・意味の共有ができ、共に活動できるようになる。

小学校

